



第1回 fib 大阪コンgres 2002 開催まで、あと



カ月

fib 大阪コンgres 2002 の学術部会活動について

渡邊 史夫*

1. 学術部会について

本年の10月13日から19日まで、第一回のfibコンgresが大阪国際会議場にて開催される。全世界からの参加者が集う“大阪コンgres”を、有益な学術・技術情報の収集、友好関係を結ぶ出会いの場、さらには、fibの将来発展への出発点（大阪コンgresがfibの第一回大会）となるように、学術関連事項全般をお世話するのが、学術部会の仕事である。学術部会は、72名の委員からなる大組織で（表-1）、吉岡民夫（オリエンタル建設）、出雲淳一（関東学院大学）、田中仁史（京都大学）の3名の幹事が舵取りし、PC技術協会事務局の協力のもとに精力的に活動している。

ファイナルインビテーションに記載のとおり、学術部会が所轄するテクニカルセッションは以下の15に分類されており、基本的なセッション運営は、各セッションに割付け

られた担当者に委ねられている。各セッションともに、キーノートスピーカーとセッションチェアマン候補者の人選が進められており、キーノートスピーカーからの論文が6月末には事務局に届く予定である。セッションチェアマンは、全体のプログラム構成やその他の事情を勘案して、今後順次決定されていく予定である。

1. 巨大プロジェクトおよび革新的な構造物
2. 先進的なプレストレストコンクリートの設計と施工
3. トンネルおよび地下構造へのコンクリートの貢献
4. 海洋構造物へのコンクリートの実践的適用
5. 合成構造
6. コンクリート構造の耐震設計
7. 新材料の開発
8. コンクリート構造物の耐久性
9. ハイパーパフォーマンスコンクリート

表-1 学術部会委員名簿

主査	渡邊 史夫				
副主査	山崎 淳				
幹事長	出雲 淳一	田中 仁史			
幹事	岡本 晴彦	齋藤 公生	多田 勝	吉岡 民夫	
委員	五十嵐心一 井上 正一 井上 晋 今井 義明 岩清水 隆 牛島 栄 梅原 秀哲 大内 雅博 太田 義和 大野 義照 岡本 享久 笠井 哲郎 春日 昭夫 上東 泰 河井 徹 岸 利治	齋藤 潮 堺 孝司 坂口 昇 紫桃孝一郎 菅野 俊介 鈴木 圭 羅 黄順 関 文夫 十河 茂幸 高木 宣章 高松 伸行 武若 耕司 田村 博 辻 正哲 堤 忠彦 椿 龍哉	陶器 浩一 西田 徳行 西山 功 西山 峰広 野口 貴文 野口 博 畑山 義人 羽原 俊介 濱田 秀則 林 静雄 原田 健二 原田 哲夫 深井 悟 福山 洋 増井 直樹 松本 信之	丸田 誠 丸山 久一 三上 泰治 南 敏和 三橋 博三 宮川 豊章 宮本 文穂 森 拓也 森川 英典 守分 敦郎 山花 豊 横田 弘 横山 滋 六郷 恵哲 和田 信秀 渡辺 博志	

(五十音順)



*Fumio WATANABE

本協会副会長
fib 2002 実行委員会 委員
学術部会 主査
京都大学大学院 工学研究科
建築学専攻 教授

10. リサイクル
11. コンクリート構造物の安全性
12. コンクリート構造物のマネージメント
13. 破壊メカニズムと非線形解析の実用化
14. コンクリート構造物の美観
15. モニタリング

学術部会の活動は、昨年5月のアブストラクトによる論文募集から始まり、アブストラクト審査による採否の通知と本論文の提出依頼（昨年8月）、本論文の受取り（本年2月）、提出本論文の査読と作業を進め、この査読結果に基づ

表 - 2 論文応募状況

Session	論分数	内訳		キーノート
		Oral	Poster	
1	54	40	14	4
2	74	61	13	4
3	17	17	0	1
4	11	8	3	1
5	60	48	12	4
6	90	50	40	6
7	54	45	9	2
8	57	52	5	1
9	44	36	8	2
10	19	16	3	1
11	48	37	11	2
12	28	23	5	2
13	52	39	13	5
14	16	16	0	3
15	28	26	2	2
Total	652	514	138	40

いた論文の採否と必要に応じた修正依頼が、すでになされている。表 - 2 に、現在の論文応募状況が示されており、最終的な論文原稿の提出期限である 7 月 22 日には、キーノートも含め、計 692 編の論文が集まる予定である。なお、上記査読のプロセスには、海外のレビューワーによるもの

(fib の学術委員会の所轄) が含まれており、大阪コンgres に投稿された論文の質に関して、高い評価を得ていると聞き及んでいる。ここまでの作業は、“21 世紀のコンクリート”と銘打った大阪コンgres に相応しい論文を、全世界から集めるという重要な仕事であり、困難な局面もたびたび現れたが、おおむね目的は達成されたと考えている。これも、本部会幹事、部会委員、査読にあたった人々、各種資料作成や煩雑な雑務を担当した PC 技術教会事務局の方々、さらには、アルバイトで作業の手伝いをされた人々による努力の賜物である。

現在は、7 月 22 日の論文提出期限を待つ一方で、次のステップへの準備を進めている。今後の作業としては、各セッションのプログラム編成、チェアマンの決定、論文集の印刷、CD-ROM の作成と目白押しである。これら作業は、実行委員会以下の各部会、連絡幹事会との連携の下で進められていくことになる。

国内および国外から、計 700 編を超える論文発表がなされるわけで、冒頭で述べたように、「有益な学術・技術情報の収集、友好関係を結ぶ出会いの場」大阪コンgres を成功させるためにも、皆様方の参加をお願いするしだいあります。

【2002 年 6 月 30 日】